

部 長 千 田 道 子
研究主任 吉 田 ゆかり
部 員 数 17名

1 研究主題

持続可能な社会の形成を目指し、生活者として主体的に実践する子の育成
～ SDGs を身近なものに～

2 はじめに

2017年に改訂された家庭科学習指導要領では、一人ひとりの児童生徒が、持続可能な社会の創り手となることも目標の一つとしている。本研究会では、家庭科の授業で、児童に基礎的な知識・技能を習得させた上で、家庭生活をよりよくしようとする実践力を育むことを課題にしている。そこで、「選ぶ」「使う」といった「消費者」としての知識や行動に関する学びから SDGs を意識して実践につなげていくことをめざし、実践・研究を行った。

3 研究経過

研究テーマに沿って授業案を立案・検討し、各部員の勤務校において実践した成果と課題を持ち寄り、研究を進めた。

4 研究の概要

「持続可能なくらしへ 物やお金の使い方」の単元では、自分の目的に合った選び方や買い方ができるだけでなく、環境などにも配慮した買い物の仕方を考えることができることをめあてとして授業を行った。

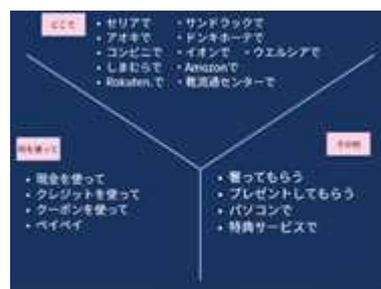
(1) 実際の授業の流れ

ア 上手に選ぶために考えよう

はじめに、物を購入する方法や場所について確認した。現在は、現金で買い物をするだけでなく、インターネットやアプリを使う方法や、キャッシュレス決済など時代の変化によって購入方法が変わっていることにも触れた。

イ 買い物の仕方について考えよう

買い物の手順を確認し、物を選ぶ観点について考えさせた。量や値段、使いやすさなどの観点から選ぶという意見が出たが、安全性や環境への配慮という観点について考えている児童はごくわずかであった。



ウ 品物についているマークの意味

安全性や環境への配慮という観点をもたせるために、品質についてのマーク、環境についてのマークの意味を動画で学ばせた。その後、

自分たちの身の回りにある品物の中から、マークがついているものを探してロイロノートで写真を撮らせ、その意味を調べさせた。児童は周りにマークがついている品物が多いことに気づき、意欲的に取り組んでいた。

エ 実際に筆箱を選んでみよう

所持金を1500円持っている設定で、三つの筆箱からどれを買うのか理由も含めて考えさせた。情報を吟味して選ぶことができるように心がけた。グループや全体で話し合いながら、品質や環境への配慮を表すマークに注目したり、店への交通手段についても考えたりする様子が見られた。



ものを選ぶとき、買い物をするとき気をつけたいこと

- ・計画して、物を買う
- ・本当に必要かをよく考える
- ・詰め替えられるものを選ぶ
- ・物を手入れして、長く使う
- ・ノートなどを買うときは、再生紙などを使ってる物なるべく選ぶ

ものを選ぶとき、買い物をするとき気をつけたいこと

- ・事前に買う物を決めて買う
- ・賞味期限を確認して買う
- ・大切に使う
- ・必要な物以外買わない
- ・本当に必要か考える

ものを選ぶとき、買い物をするとき気をつけたいこと

- ・物を選ぶ時は、一回調べ
- ・計画して物を買う
- ・今必要なのか考える
- ・同じ物ようならば、持っていないが
- ・必要なものだけ買う
- ・今持っているお金と買うものの値段を考える

(2) 成果と課題

物を選ぶときの観点として、環境や資源に配慮しているかを意識するということに気づけた児童が多く見られたことは、成果と言える。買い物以外の生活の場面でも、持続可能な社会をつくることにつながる工夫を考え、実践していくことができるよう、継続して指導していきたい。

5 今後の課題

児童の振り返りでは、学習を今後の生活に生かして、購入の際にはよく品質表示やマークを見て物を選び、環境や資源に配慮した生活を工夫したいというものが多く見られた。家庭科の授業を通して、持続可能な社会の創り手となることをめざすSDGsの視点も意識しながら、児童に家庭生活をよりよくしようとする実践力を育むことを今後も課題としていきたい。